2027 年度　学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点
公募型共同研究課題　募集要項

JHPCN 事務局



リリースノート

2026 年 11 月 16 日　第 1 版公開

2026 年度公募からの主な変更点

「量子-HPC 連携共同研究課題」の新設

国立研究開発法人理化学研究所（以下「理研」という。）の協力により、量子コンピュータとスーパーコンピュータ（HPC）を連携して利用する「量子-HPC 連携共同研究課題」を新設しました。採択課題は、別途の手続き・審査を経て、JHPC-quantum が提供する量子コンピュータを無償で利用できます。

「課題申込書」の構成の見直し

審査は提出された課題申込書の記載内容に基づいて行うことを明確化しました。あわせて、課題申込書のみで十分に説明できるように「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）の構成を見直し、ページ数の上限を緩和するとともに、ページ数制限を設定しました。

評価項目の公開

審査の透明性向上のため、「総合評価」および「個別評価」の評価項目を明記しました。詳細は、「こちら」で確認してください。

審査に付さない条件の明確化

「審査に付さない条件」を明確化しました。
それにあわせて、希望者を対象として、提出書類に審査に付さないような形式的不備がないかを事前に JHPCN 事務局で確認することとしました。詳細は、「こちら」で確認してください。

応募可能課題数の設定

同一の課題代表者が応募できる課題数について、課題種別ごとに 1 課題までとしました。詳細は、「こちら」で確認してください。

国際共同研究課題、企業共同研究課題の取り扱いの見直し

国際共同研究課題、企業共同研究課題を推進するため、要件を見直しました。国際共同研究課題の詳細は「こちら」、企業共同研究課題の詳細は「こちら」で確認してください。

JHPCN シンポジウムでの発表・報告書の取り扱いの見直し

JHPCN シンポジウムでの発表・報告書の取り扱いを整理し、採択時の「遵守事項」に記載しました。

目次

リリースノート i
2026 年度公募からの主な変更点 ii
目次 iii
はじめに iii
1. 本課題採択のメリット 3
2. 共同研究期間 3
3. 利用可能な計算機等の資源 3
4. 課題分野 4
5. 課題種別 4
6. 応募資格 6
7. 課題申込書 8
8. 評価方法 11
9. 資源量 13
10. 応募手順 16
11. スケジュール 20
12. 審査に付さない条件 21
13. 留意事項 21
14. 問い合わせ先 24
別紙（1）共同研究で利用可能な「HPCI 資源」一覧 25
別紙（2）共同研究で利用可能な「非 HPCI 資源」一覧 38

はじめに

「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」は、文部科学省から学校教育法施行規則に基づく認定を受け共同利用・共同研究拠点（拠点ネットワーク）であり、「JHPCN」と通称されています。共同利用・共同研究拠点は、大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備することを目的としたもので、JHPCN は、北海道大学、東北大学、東京大学、東京科学大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の大規模計算機システムを持つセンター（以下「構成拠点」という。）により構成され、各構成拠点の持つ計算資源の様々な研究への提供（共同利用）や、各構成拠点所属研究者との共同研究を推進しています。JHPCN の詳細については、JHPCN のウェブサイトを参照してください。

JHPCN では、2027 年度の公募型共同研究課題（以下「本課題」という。）を募集します。JHPCN では、学際性を「計算科学、データ科学、計算機科学を 3 つの柱とし、3 つの柱の間での、または 3 つの柱と応用分野との融合領域の創生[1]」と定義しており、学際的な研究を公募します。（図 1）

本課題に採択されると、認められた範囲内で、構成拠点が保有するスーパーコンピュータ（HPC）などの計算資源や、データ科学・データ利活用に主軸をおいた計算基盤「mdx[2]」（全構成拠点を含む 9 大学 2 研究機関が共同運用）を無償で利用することができます（利用可能な計算機等の資源については「別紙（1）」、「別紙（2）」参照）。

また、新設した「量子-HPC 連携共同研究課題」の課題種別で採択されると、別途の手続き・審査を経て、理研の協力により、JHPC-quantum が無償で提供する量子コンピュータを利用することができるようになりました。

採択課題は年 1 回開催される「JHPCN シンポジウム」への参加・発表を通じ、新たな研究ネットワークの構築や研究・開発の発展につなげることができます。JHPCN シンポジウムには多数の研究者に参加いただいており、これらの研究者との共同研究によって、研究テーマの一層の発展を図っていただくことも期待できます。さらに、採択課題には、研究成果の海外発表の経費や、論文掲載料等の経費が助成される場合もあります。

2027 年度の課題応募受付締切は 2027 年 1 月 5 日 10：00 となっております。多くの研究者の方々の応募をお待ちしております。

---

[1] 応用分野間の融合領域は、JHPCN では学際的な研究とは位置付けていません。

[2] 2026 年度公募から、計算機等の資源として mdx II が追加され、利用できるようになっています。mdx II が追加されたことにより、従来の mdx は mdx I と名称変更され、mdx I と mdx II の総称を mdx と称しています。

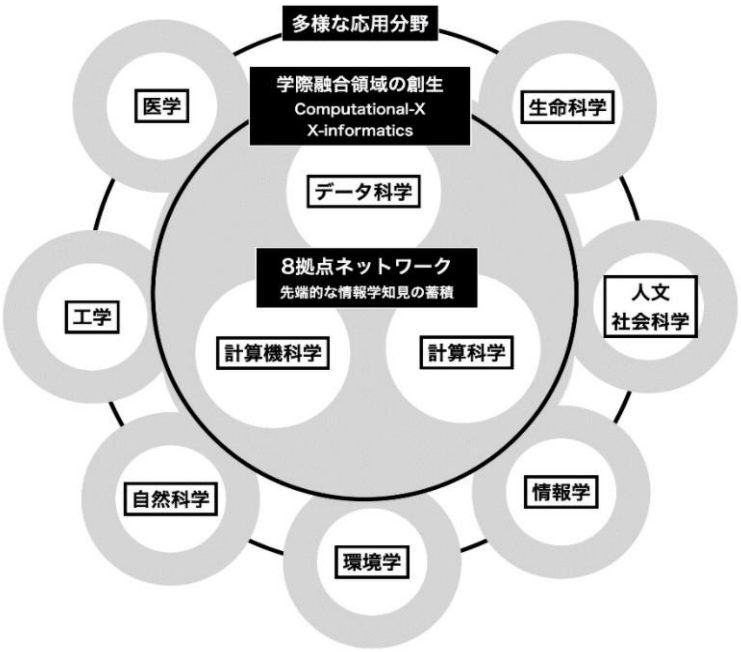


図１　情報科学の３つの柱とその応用分野の概念図。
新たな融合領域の創生による学際研究の推進を目指すための共同研究を公募します。
「多様な応用分野」の記載は例示であり、ここに記載した分野に限られません。

1. 本課題採択のメリット

本課題に採択されると、次のようなメリットがあります。

- **計算機等の資源の無償利用**
  課題採択時に許可された範囲で計算機等の資源を無償で利用できます。計算機等の資源の詳細に関しては、後述の「利用可能な計算機等の資源」を参照してください。
- **学際的共同研究ネットワークの構築によるさらなる研究推進**
  シンポジウムでの交流を通して広範な研究ネットワークの構築が支援されます。
- **経費助成制度**
  採択課題は、構成拠点内外の委員から構成される「JHPCN 共同研究課題審査委員会」[3]（以下「課題審査委員会」という。）にて審査の上、次の経費が助成されることがあります。最新の助成情報・様式等は、JHPCN ウェブサイト「課題代表者向け情報」を確認してください。
  - 国際会議の参加費・講演費および発表旅費（若手・女性研究者）
  - 論文掲載料

これまでに採択された研究課題名や実施報告等の情報は JHPCN ウェブサイト「公募型共同研究課題」を参照してください。

2. 共同研究期間

2027 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日

※ 計算機利用アカウント発行手続きの都合により、計算機利用開始が遅れる場合があります。

※ 応募や最終報告を含めた詳細なスケジュールは、後述の「スケジュール」を参照してください。

3. 利用可能な計算機等の資源

本共同研究で利用可能な資源には「HPCI 資源」と「非 HPCI 資源」の 2 種類があります。利用する資源によって応募手順が異なりますので、注意してください（後述の「応募手順」を参照）。また、「HPCI 資源」と「非 HPCI 資源」は合わせて利用することが可能です。

3.1. HPCI 資源

HPCI（革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ）とは、国内の大学や研究機関の計算機システムやストレージを高速ネットワークで結んだ共用計算環境基盤のことであり、一般財団法人高度情報科学技術研究機構（以下、「RIST」という。）により運営されています。HPCI が提供す

[3] JHPCN の関係委員会は、JHPCN ウェブサイトの「関連委員会」を参照してください。

る計算資源の一部（HPCI-JHPCN システム）を共同研究に利用することができます。この資源を「HPCI 資源」と呼びます。利用可能な「HPCI 資源」の一覧を「別紙（1）」に示します。

3.2. 非 HPCI 資源

「非 HPCI 資源」とは、「HPCI 資源」以外のことを指し、「mdx」とその他の資源があります。利用可能な「非 HPCI 資源」の一覧を「別紙（2）」に示します。

4. 課題分野

本公募では、「大規模計算科学分野」と「データ科学・データ利活用分野」の 2 つの課題分野に分けて、本課題を募集します。

4.1. 大規模計算科学分野

計算科学に関連する研究を幅広く募集します。計算科学シミュレーションのモデルの改良に実データを用いるような研究は「大規模計算科学分野」に応募してください（前年度に「データ科学・データ利活用分野」で実施された課題の継続応募を含みます）。

4.2. データ科学・データ利活用分野

データ科学・データ利活用に関する研究を幅広く募集します。先端的なデータサイエンス手法の開発や、人文・社会科学、生命科学、理学・工学にまたがる多様なデータの収集や解析、そして研究コミュニティにおけるデータの共有やプラットフォームの整備など、基礎から応用に至る幅広い手法・分野の研究テーマを歓迎します。なお、実データを扱っていても、計算科学シミュレーションのモデルの改良に実データを用いるような研究は「大規模計算科学分野」に応募してください。

5. 課題種別

本公募では、「一般共同研究課題」、「国際共同研究課題」、「企業共同研究課題」、「量子-HPC 連携共同研究課題」の課題種別があります。

5.1. 一般共同研究課題

下記の「国際共同研究課題」、「企業共同研究課題」、「量子-HPC 連携共同研究課題」に当てはまらない課題は、すべて「一般共同研究課題」を選択してください。

5.2. 国際共同研究課題

国内の研究者のみでは解決や解明が困難である問題について、国外の研究者と学際的な共同研究を実施するものです。応募資格は、後述の「応募資格」を参照してください。

英文での「課題申込書」作成が必須であり、日本語で提出された場合には、「一般共同研究課題」として取り扱います。

本課題種別では、「課題審査委員会」にて審査の上、旅費（出張旅費または招へい旅費）が助成されることがあります。最新の助成情報・様式等は JHPCN ウェブサイト「国際共同研究課題の旅費助成の手続き」を確認してください。

また、国際共同研究の活性化のため、JHPCN はドイツ NHR（Nationales Hochleistungs Rechnen）との相互協力協定（MoU）を 2024 年に締結しました。これに伴い、「国際共同研究課題（NHR）」を設け、本課題種別の採択枠を拡大するとともに、NHR の研究者を副代表者とする「国際共同研究課題」の応募が奨励されます。

国際共同研究課題を推進する観点から、応募資格の見直しを行いました。詳細は、後述の「応募資格」を参照してください。

なお、審査の結果、「一般共同研究課題」として採択される場合があります。

5.3. 企業共同研究課題

産業応用を重視した共同研究を実施するものです。一定程度の研究要素は求めるものの、重視はされません。企業共同研究課題を推進する観点から、応募資格の見直しを行いました。詳細は、後述の「応募資格」を参照してください。

なお、審査の結果、「一般共同研究課題」として採択される場合があります。

5.4. 量子-HPC 連携共同研究課題

別途の手続き・審査[4]を経て、理研の協力により、JHPC-quantum が無償で提供する量子コンピュータを利用することができる種別であり、量子コンピュータと HPC を組み合わせた意欲的な提案を歓迎します。（量子コンピュータのみ利用の提案は、採択しません。）

提供される量子コンピュータは、①ibm_kobe（IBM：156 量子ビット、超伝導方式）、②黎明（Reimei）（Quantinuum：56 量子ビット、イオントラップ方式）であり、採択者は、別途の手続き・審査を経て、いずれかもしくは両方を利用できます。

これらの量子コンピュータとスーパーコンピュータ「Miyabi（Miyabi-G/Miyabi-C）」および「OCTOPUS」を連携させた量子・HPC ハイブリッド環境は構築済みで、両システムのログインノードから Miyabi (Miyabi-G/Miyabi-C) /OCTOPUS とこれらの量子コンピュータを利用した量子・HPC ハイブリッド連携ワークロードも実行が可能となっています。（図 2）したがって、本課題種別において

[4] 詳細は、採択後に理研から、量子コンピュータの利用者に個別に案内がなされます。本公募で採択されたとしても、理研における審査の結果、量子コンピュータの使用が認められないこともあります。

は、必ず、東京大学の提供する Miyabi-G または Miyabi-C もしくは大阪大学の提供する OCTOPUS の少なくともいずれかの資源の利用を申請してください。いずれの資源の利用も申請していない場合は、審査に付しません。

量子コンピュータの利用にあたっては、様々な場合が想定されます。ミスマッチを少なくするため、Miyabi (Miyabi-G/Miyabi-C) を利用する提案を行うにあたっては東京大学情報基盤センター担当窓口へ、OCTOPUS を利用する提案を行うにあたっては大阪大学 D3 センターへ 2026 年 12 月 15 日 (火) までに相談してください。その際、メールのタイトルには、「JHPCN 量子」を含めてください。

なお、審査の結果、「一般共同研究課題」として採択される場合があります。

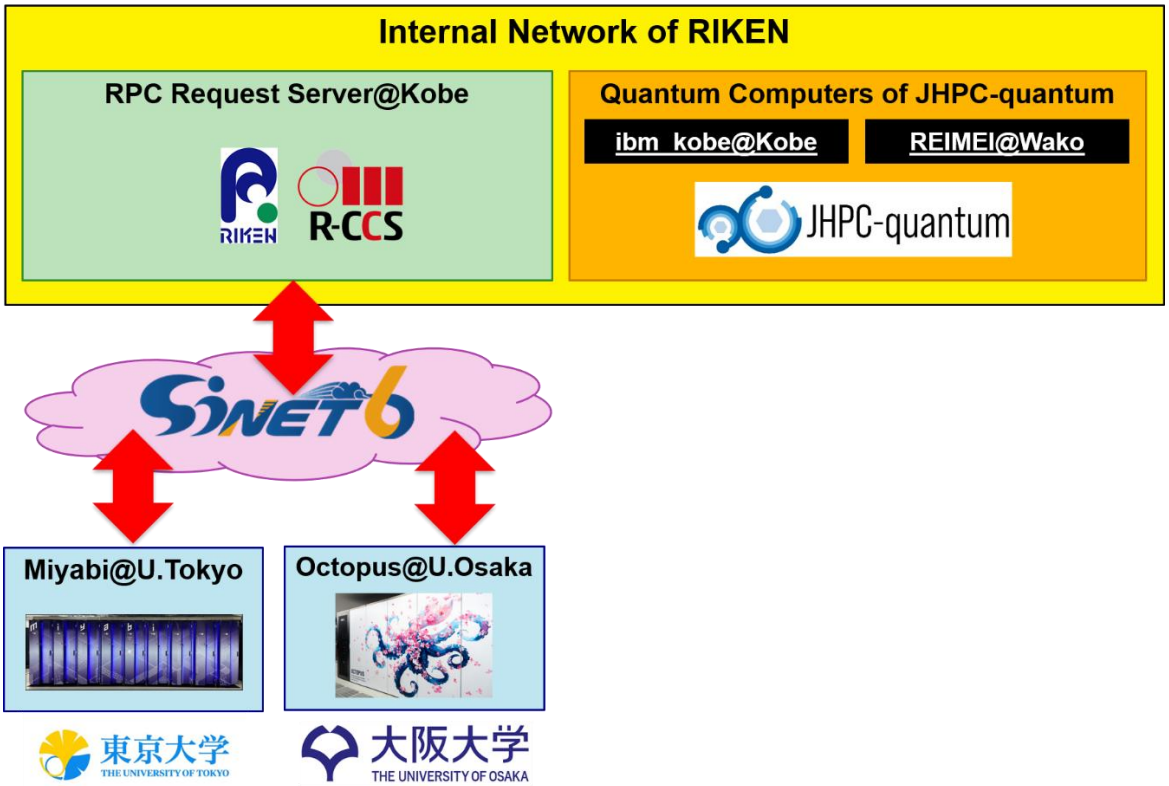


図 2　量子・HPC ハイブリッド連携のための量子コンピュータ群（ibm_kobe，Reimei）の接続
量子・HPC ハイブリッド連携ジョブは「Miyabi (Miyabi-G/Miyabi-C)」または「OCTOPUS」のログインノードからサブミットします

6. 応募資格

本課題は国内の組織に所属する研究者を課題代表者とした、2 名以上の研究グループが提案できます。

6.1. すべての課題種別における要件

- 研究グループには、「課題代表者」1 名、「副代表者」1 名以上が必要です。この体制は、採択された場合にも、維持する必要があります。

- 「課題代表者」と「副代表者」に加えて、任意数の「共同研究者」を含めることができます。
- 課題代表者は、研究開始日時点において、日本国内の機関（大学・研究機関、民間企業等）に所属する者であることが必要です。[5]
- 大学院、大学（短期大学を含む）、高等専門学校、大学または大学院に相当する水準の教育を行っていると大学改革支援・学位授与機構が認定した大学校の学生は共同研究者として参加できます。課題代表者、副代表者にはなれません。
- 「外国為替及び外国貿易法（外為法）」における非居住者及び「特定類型」に該当する居住者[6]については、採択された場合であっても、安全保障輸出管理の観点から、構成拠点の判断により、計算資源の利用が許可されないことがあります。このことにより、研究課題の遂行ができなくなる場合には、辞退していただくことになります。

6.2. 「国際共同研究課題」における追加要件

- 副代表者として、日本国外の研究機関に所属している研究者を 1 名以上含むことが必要です。この要件を満たさない場合には、「一般共同研究課題」として扱います。
- 2026 年度までは、研究グループに、構成拠点に所属している研究者が参画していることを要件としていましたが、2027 年度は、要件とはせず、奨励する取り扱いとします。

6.3. 「企業共同研究課題」における追加要件

- 課題代表者は、民間企業に所属している研究者であることが必要です。なお、この要件を満たさない場合には、「一般共同研究課題」として扱います。
- 2026 年度までは、副代表者として、構成拠点に所属している研究者を 1 名以上含むことを要件としていましたが、2027 年度は、副代表者として、国内の大学または公的研究機関[7]に所属している研究者を 1 名以上含むことを要件とします。

6.4. 「量子-HPC 連携共同研究課題」における追加要件

- 研究グループには、量子コンピューティングに関する研究実績を有する者を含めてください。
- 東京大学の提供する Miyabi-G または Miyabi-C もしくは大阪大学の提供する OCTOPUS の少なくともいずれかの資源の利用を申請してください。いずれの資源の利用も申請していない場合は、審査に付しません。また、後述の「優先確保資源」にはこれらの資源以外の指定はできません。

---

[5] 応募時点で要件を満たさなくても、研究開始日時点では、要件を満たすことが見込まれる場合は、事前に JHPCN 事務局にご相談ください。

[6] 経済産業省「みなし輸出管理の運用明確化について」の 4 ページ目参照。

[7] 競争的研究費の配分を受ける機関に限ります。

- 量子コンピュータの利用希望者を指定してください[8]。実際に利用する方で、1 名以上の指定が必要です。なお、量子コンピュータの利用希望者がいない場合には審査に付しません。

7. 課題申込書

本課題に応募するには、「課題申込書」を作成の上、提出することが必要です。

7.1. 「課題申込書」の概要

「課題申込書」は、「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）と「課題申込書（2）」（Excel）の 2 ファイルがあり、JHPCN ウェブサイト「共同利用・共同研究公募」で様式をダウンロードすることができます。

7.1.1. 「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）

「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）には、次の表のとおりの項目があり、その本文にはページ数制限が設定されています。ページ数制限を超えて応募された課題は、審査に付しません。

「課題申込書（1）」の項目		「課題申込書（1）」のページ数制限
本文	1. これまでの研究・背景	日本語の場合 3 ページ 英語の場合 4 ページ
	2. 研究の目的・意義	
	3. 研究の学際性・資源利用の必要性	
	4. 研究計画	
	5. 共同研究の推進にあたって構成拠点において研究グループや研究者の協力が必要な項目	
	6. 人権の保護及び法令等への遵守の対応	1 ページ
	7. その他	
	8. 本研究に関連して最近発表した成果のうち主なもの	1 ページ
資源量積算根拠と利用目的		制限なし

7.1.2. 「課題申込書（2）」（Excel）

「課題申込書（2）」（Excel）には、Project シート（課題情報）、Researcher シート（共同研究体制）、資源を利用する構成拠点の資源利用申請シート、Check＆Declaration シート（提出前確認・誓約）を記載してください。

[8] すでに、JHPC-quantum の登録研究員である方は、原則として、本課題において量子コンピュータの利用者となることはできません。やむを得ない理由があって、JHPC-quantum の登録研究員である方が本課題において量子コンピュータの利用者として参画する必要がある場合には、事前に理研計算科学研究センターにご相談ください。

1. Project シート（課題情報）

- **課題分野**

  前述の「課題分野」を参照して、提案する課題の研究テーマにより、「大規模計算科学分野」と「データ科学・データ利活用分野」のいずれかを選択してください。課題分野を指定せずに応募された課題は、審査に付しません。

- **課題種別**

  前述の「課題種別」を参照して、研究グループ・研究内容に応じて、「一般共同研究課題」、「国際共同研究課題」、「国際共同研究課題（NHR）」、「企業共同研究課題」、「量子-HPC 連携共同研究課題」のいずれかの課題種別を選択してください。課題種別を指定せずに応募された課題は、「一般共同研究課題」として取り扱います。

- **研究分野**

  「HPCI 資源」を利用する場合は、「大規模数値計算系応用分野」、「大規模データ処理系応用分野」、「大容量ネットワーク技術分野」、「大規模情報システム関連研究分野」の研究分野から、いずれかを 1 つ以上を選択してください。

- **新規／継続**

  新規課題か継続課題かを選択してください。継続課題の場合は、前年度課題 ID または萌芽 ID を入力してください。

- **審査希望区分**

  応募課題の審査を行う審査委員の割り当ての参考とするため、科研費の審査区分表から、次のように「審査希望区分」を指定してください。

  ➢ 情報学の観点から、中区分 60・61 の「内容の例（旧：キーワード）」から 1 つを必須で指定してください。任意で、5 つまで指定できます。

  ➢ 応用分野の観点から、小区分を任意で 2 つまで指定できます。

- **連絡責任者**

  申請内容に不明な点がある場合や、課題採択・不採択の通知は、課題代表者と連絡責任者に電子メールで通知されますので、連絡責任者は、課題代表者とは別に確実に連絡のとれる方を指定してください。連絡責任者は HPCI-ID を取得していなくても構いません。

2. Researcher シート（共同研究体制）

- **一般事項**

  研究グループのメンバーは、全員記載する必要があります。特に必須項目の入力漏れがないか、注意してください。

- **「量子-HPC 連携共同研究課題」での留意事項**

  「量子-HPC 連携共同研究課題」では、以下の点を留意してください。

  ➢ 量子コンピューティングに関する研究実績を有する者は、「役割・担当分野等」の列にその旨を明記してください。

  ➢ 「量子コンピュータの利用希望」欄に量子コンピュータの利用希望者を指定するとともに、

「メールアドレス（量子コンピュータを利用希望の場合）」欄にメールアドレス[9]を記載してください。採択された場合には、理研から、このアドレスに手続きの案内がなされますので、当該案内に従って、手続きをしてください。

利用希望者は、実際に量子コンピュータを利用する方に限ってください。すでに、JHPC-quantum のアカウントを保持しているかを確認して、「JHPC-quantum のアカウントの保持」欄に保持の有無を記載してください。

なお、量子コンピュータの利用希望者がいない場合には審査に付しません。

3. 資源利用申請シート

後述の「資源量」と「別紙（1）」を参照して、資源を利用する構成拠点のシートを作成してください。各資源の利用金額計算式に基づき、金額が自動計算されます。なお、利用金額計算式は、各構成拠点の一般利用時のものとは異なることがあります。

4. Check & Declaration シート

「提出前チェック」で提出前に不備がないかを確認してください。

また、「募集要項及び関連規則を確認し、応募資格・研究倫理・法令等を遵守し、申請内容に虚偽がないこと」を誓約の上、電子的な確認をしてください。

7.2. 「課題申込書」作成上の留意点

「課題申込書」の作成にあたっては、次の点に留意してください。

- 「課題申込書」の様式は前年度から変更されています。最新の様式で作成してください。前年度以前の様式で応募された課題は、審査に付しません。
- 「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）の留意事項、「課題申込書（2）」（Excel）の Read Me First シートを確認の上、作成してください。
- 審査にあたっては、「課題申込書」のみを使用します[10]ので、必要かつ十分な記述を心がけてください。また、専門分野が異なる審査委員にも容易に理解できるように、分かりやすく記述してください。
- 本課題での提案は平和利用目的に限ります。人権および利益保護に配慮してください。
- 本課題では、単独で完結する研究課題だけでなく、すでに他の競争的研究費等により遂行している研究課題を学際的に発展・拡充する目的で応募することもできます。この場合、現在の研究課題との違いを「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）に明確に記載してください。
- 利用を計画している計算機等の資源が研究に必要な条件を満たしているかについては、応募前に資源提供している構成拠点と相談・確認してください。
- 利用可能なハードウェア・ソフトウェアの機能・性能だけではなく、たとえば医療情報を扱う場合であれば、個人情報保護法や厚生労働省、総務省、経済産業省の 3 省ガイドラインに準

[9] フリーアドレス（フリーメール）不可。そのメールアドレスから送信できるメールアドレスに限ります。

[10] ただし、過年度からの継続課題及び実質的に継続性があると判断された課題では、過年度の中間報告書・最終報告書の内容が審査時に考慮される場合があります。

拠していないときに問題となりえますので、注意してください。

- ✧ 厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」
- ✧ 総務省・経済産業省「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」

➢ 応募課題の研究分野において倫理指針やガイドラインが存在する場合には、それらに従ってください。特に、研究倫理審査を必要とする課題では、研究者の所属組織等が行う審査により実施が承認されなくてはなりません。

7.3. 応募数制限

同一の課題代表者は、課題種別ごとに 1 課題まで応募することができます。ただし、「国際共同研究課題」と「国際共同研究課題（NHR）」は、別の課題種別とみなしますので、「国際共同研究課題」と「国際共同研究課題（NHR）」の 2 課題に応募することはできます。

同一の課題代表者が、同一の課題種別で 2 課題以上応募した場合は、先着の 1 課題を審査の対象とします。2 課題目以降に応募した課題は審査に付しません。

なお、「国際共同研究課題」、「企業共同研究課題」、「量子-HPC 連携共同研究課題」で応募した課題は、審査の結果、「一般共同研究課題」として採択される場合があります。そのため、結果として、同一の課題代表者が 2 課題の「一般共同研究課題」に採択されることはあり得ます。

8. 評価方法

8.1. 審査の概要

本課題に応募すると、「課題審査委員会」により審査されます。「課題審査委員会」は RIST の「学際共同研究ワーキング・グループ」を兼ねることになっており、「HPCI 資源」を利用する課題については、RIST の「利用研究課題審査委員会」においても、「学際共同研究ワーキング・グループ」の課題選定プロセスが適正におこなわれているかの審査がなされます。

「課題審査委員会」の審査における評価は、後述の「評価項目」を用いて行います。

2027 年度においては、限られた予算の範囲でより多くの研究課題を支援する方針で審査を行います。

8.2. 高く評価するポイント

以下に高く評価するポイントを記載します。該当する事項は、「課題申込書」中で明確に記述してください。

8.2.1. すべての課題分野で高く評価するポイント

- **学際的研究体制**

JHPCN では、学際性を「計算科学、データ科学、計算機科学を 3 つの柱とし、3 つの柱の間での、または 3 つの柱と応用分野との融合領域の創生」と定義しており、学際的な研究を公募しています。そのため、異なる専門を持つ研究者のグループで構成された課題を高く評価します。

- **ソフトウェアおよびデータ活用推進**
  開発したソフトウェアや構築したデータベースが多くの人に活用されることを目指す課題を高く評価します。単にソフトウェアやデータを公開するだけでなく、成果の幅広い利活用を目指す取り組みを行うことが必要です。
- **IT 基盤技術開発**
  アーキテクチャやシステムソフトウェア、セキュリティなど、IT 技術の基盤的研究につながる課題を高く評価します。各構成拠点の IT 基盤技術の研究者との共同研究により、基盤的研究を推進することもできます。
- **拠点連携**
  単一のシステムでは実現が困難な課題に取り組むため、複数構成拠点の資源を活用する課題を高く評価します。例えば、広域分散型の大規模情報システムの研究、アプリケーションのマルチプラットフォーム実装などの複数構成拠点の計算資源を利活用した共同研究などが考えられます。なお、mdx I と mdx II の同時利用は拠点連携として扱います。また、異なる構成拠点に所属する複数の研究者と連携して取り組む研究課題についても同様に扱います。
- **大規模データ・大容量ネットワーク利用**
  研究者の研究実施場所等と拠点が提供する資源の間、もしくは構成拠点間で大量のデータ転送を伴う課題を高く評価します。利用できる資源には、国立情報学研究所の協力により SINET が提供する広帯域ネットワーク（L2VPN サービスなどを含む）と密に結合可能なものもあり、広帯域ネットワークの利用を前提とした研究を実施できます。

8.2.2. 「大規模計算科学分野」で高く評価するポイント

- **研究的要素**
  研究的要素が大きい課題を高く評価します。なお、研究開発要素がなく、計算資源の利用のみを主な目的とする課題（プロダクトラン課題）は採択しません。[11]

8.2.3. 「データ科学・データ利活用分野」で高く評価するポイント

- **実社会インパクト**
  データ活用により実社会の重要だが困難な課題の解決（たとえば、Society5.0 の実現、SDGs のゴールの達成など）につながるような課題を高く評価します。
- **データ利活用推進**
  従来、データの流通と活用があまり進んでいない分野におけるデータ利活用の推進を図る課題を高く評価します。また、異種の研究データ（文献、論文等を含む）を統合的に活用し、高

[11] プロダクトラン課題は、HPCI 課題での申請を検討してください。

度な解析により新しい発見などにつなげる取り組みも高く評価します。

- **セキュリティと個人情報保護**
  医療・健康、教育、経済等の社会的に重要な意義を持つデータを利活用して新たな価値を創出する課題や、そのようなデータのセキュアな利活用技術（個人情報保護技術など）を推進する課題を高く評価します。

8.3. 評価項目

「課題審査委員会」での審査における評価項目には、総合評価と個別評価があります。

8.3.1. 総合評価

各課題分野の審査の際に「高く評価するポイント」に照らして、総合的に評価します。

8.3.2. 個別評価「目的と意義、必要性、新規性、独創性、インパクト」

「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）の項目における「1. これまでの研究・背景」、「2. 研究の目的・意義」に関連付け、研究の目的と意義、必要性、新規性、独創性、インパクトなどを評価します。

8.3.3. 個別評価「学際性、計画の妥当性、実現可能性」

「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）の項目における「3. 研究の学際性・資源利用の必要性」、「4. 研究計画」、「5. 共同研究の推進にあたって構成拠点において研究グループや研究者の協力が必要な項目」、「6. 人権の保護及び法令等への遵守の対応」、「7. その他」、「8. 本研究に関連して最近発表した成果のうち主なもの」、「資源量積算根拠と利用目的」に関連付け、学際性、施設・設備・人的資源の利用目的を含む研究計画の妥当性、これまでの関連研究実績を踏まえた計画の実現可能性などを評価します。

9. 資源量

9.1. 申請資源量の上限

申請資源量の上限は、次のとおりに定めています。資源量は研究計画に照らして妥当であることが必要です。各資源の申請量を金額に換算して積算します。

申請資源量の上限額を超えた申請がされた課題は、審査に付しません。

1. 単独の構成拠点が提供する資源（mdx を除く）のみを利用申請する場合
   上限 300 万円

2. mdx のみを利用申請する場合
   100 万円

3. 複数の構成拠点が提供する資源を利用申請する場合

上限 360 万円

※mdx も利用申請する場合、mdx の申請資源量は「100 万円」か「360 万円から他拠点の資源量合計を差し引いた金額」のいずれか低い方になります。

9.2. 資源量積算根拠と利用目的

資源量積算根拠と利用目的は、審査における重要な要素のひとつですので、「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）に附属している「資源量積算根拠と利用目的」に、明確に記載してください。「資源量積算根拠と利用目的」にページ数制限はありません。十分な記載がない場合には、課題全体の評価が低くなることがあります。

資源量積算根拠の記載範囲は、課題分野、新規／継続、申請資源量により異なりますので、以下のフローチャートで確認してください。（図 3）

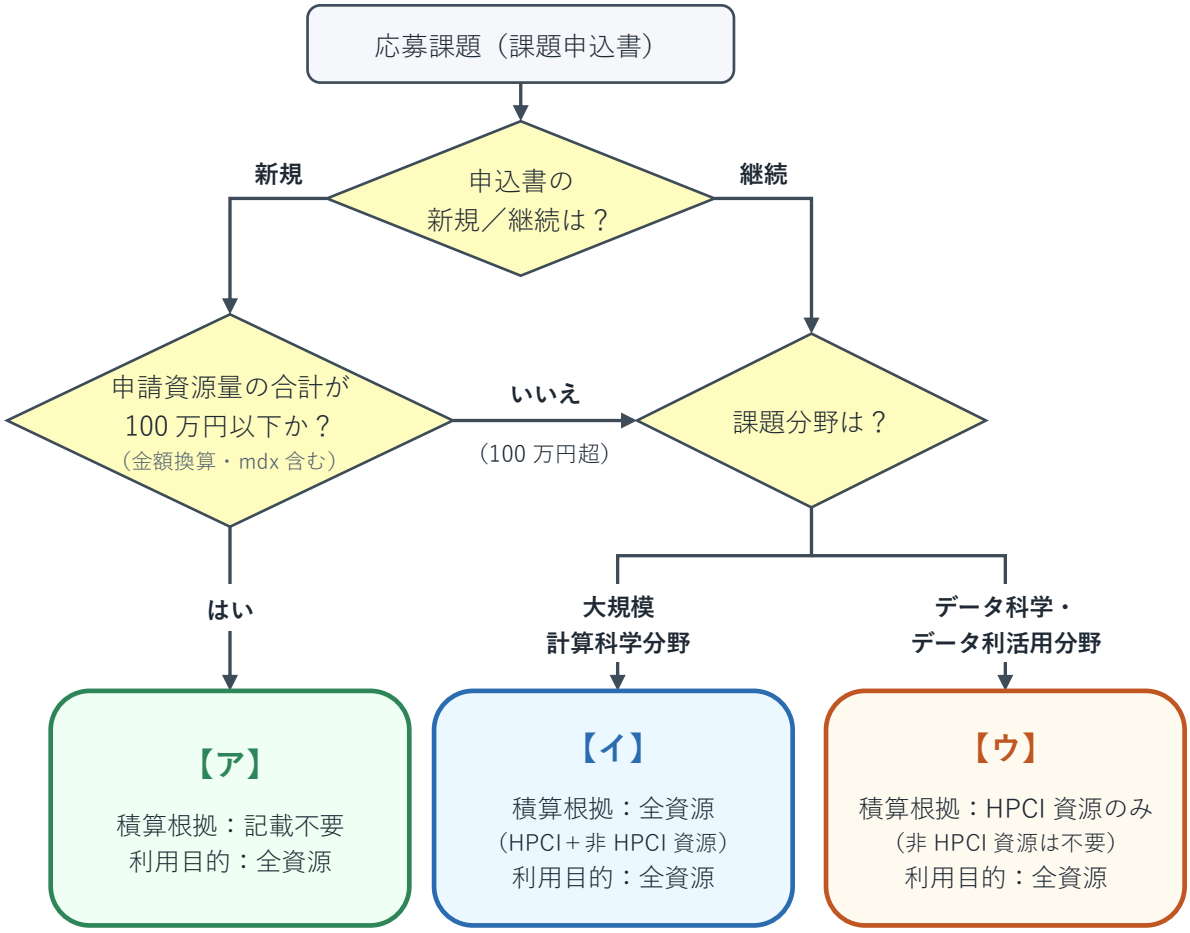


図 3　「資源量積算根拠と利用目的」の記載範囲のフローチャート

1. 【ア】の場合の記載範囲

資源量積算根拠：利用予定の全ての資源について、記載する必要はありません。

利用目的：利用予定の全ての資源について、記載してください。

2. 【イ】の場合の記載範囲

資源量積算根拠：利用予定の全ての資源について、明確に記載してください。「HPCI 資源」と「非 HPCI 資源」の双方の記載が必要です。なお、「非 HPCI 資源」の mdx を利用する場合は、「課題申込書（2）」（Excel）の mdx 資源利用申請シートに表示される mdx の利用料に関わらず、実際に使用を計画している資源量について積算根拠を記載してください。

利用目的：利用予定の全ての資源について、記載してください。

3. 【ウ】の場合の記載範囲

資源量積算根拠：利用予定の全ての資源のうち、「HPCI 資源」について、明確に記載してください。「非 HPCI 資源」を記載する必要はありません。

利用目的：利用予定の全ての資源について、記載してください。

9.3. 提供資源量

採択された場合に、実際に提供される資源量は、予算の関係で、削減される場合があります。2027 年度においては、限られた予算の範囲でより多くの研究課題を支援する方針であるため、結果として提供される資源が大幅に削減されることがあります。

特に、前年度からの継続課題及び実質的に継続性があると判断された課題では、前年度資源が低利用・未利用の場合には、提供される資源量が削減される場合があります。

なお、本課題は、単独で完結する研究課題だけでなく、すでに他の競争的研究費等により予算を得ている研究課題を学際的に発展・拡充する目的で応募することもできるほか、自己資金による資源の追加も可能です。提供される資源が削減された場合には、その範囲に応じた学際的な発展を図るか、必要に応じて自己資金により資源の追加を行うようにしてください。

9.4. 優先確保資源

「提供資源量」で前述のとおり、全ての資源について削減を行う場合がありますが、特定の資源が削減されることにより課題の実施が不可能となる場合には、特定の資源を「優先確保資源」に指定することができます。優先確保資源を指定した場合には、指定されていない資源から資源量を削減します。優先確保資源に指定されていない資源を削減しても、さらに削減が必要な場合には、優先確保資源も削減します。

「量子-HPC 連携共同研究課題」では、Miyabi-G、Miyabi-C、OCTOPUS 以外の資源を優先確保資源に指定することはできません。

- 課題に提供される資源の総量は優先確保資源を指定しても変わりません。また、採択後の資源量の削減時には優先確保資源指定をしていない資源から優先的に削減されるため、資源間の極端な偏りが生じる可能性があります。したがって、優先確保資源の指定は必要不可欠な場合のみ行ってください。
- 単一資源のみの申請では、優先確保資源の指定は無効です。

- 優先確保資源に指定できる計算機資源は「HPCI 資源」のみです。「HPCI 資源」と mdx の双方を利用申請した場合には、「HPCI 資源」よりも mdx を優先して割り当てを行うため、結果として、「HPCI 資源」の削減量が多くなる可能性があります。
- 資源ごとに優先確保資源として指定する以外の細かい指定はできません。

10.応募手順

概要・注意点

「HPCI 資源」を利用する課題と利用しない課題で、応募手順が異なります。応募手順が誤った課題は審査に付しません。

- 「HPCI 資源」を利用する研究課題（「非 HPCI 資源」を併せた利用も含む）
  →「応募カテゴリ A」の応募手順で申し込んでください
- 「HPCI 資源」を利用しない研究課題（「非 HPCI 資源」のみを利用する研究課題）
  →「応募カテゴリ B」の応募手順で申し込んでください

10.1. 応募カテゴリ A：「HPCI 資源」を利用する研究課題

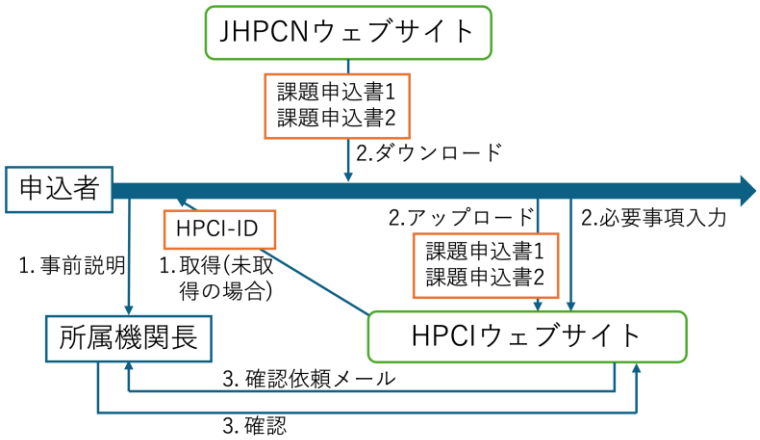


図 4　応募カテゴリ A の手順

『「HPCI 資源」を利用する研究課題（「非 HPCI 資源」を併せた利用も含む)』の応募手順です。詳細な手順は、JHPCN ウェブサイト「共同利用・共同研究公募」に掲載されている「JHPCN HPCI 資源利用課題申込みガイド」を参照してください。

『「HPCI 資源」を利用する研究課題（「非 HPCI 資源」を併せた利用も含む)』が後述の「応募カテゴリ B」の手順で応募がなされた場合は審査に付しません。

10.1.1. 応募前に必要な手続き

1. HPCI-ID の取得

   「HPCI ウェブサイト」にて申請してください。「HPCI 資源」を利用する方は全員、HPCI-ID を取得する必要があります。既に HPCI-ID を取得済みの方は、最新の情報が登録されているかを確認し、必要に応じて、「HPCI 申請支援システム」で登録情報の更新・変更をしてください。
   HPCI-ID の取得が必要な方は、下記の方が該当します。

   - 課題代表者
   - 副代表者 1 名以上（代理申込みや対面認証をする副代表者は全員）
   - 課題代表者と副代表者 1 名以上に加えて、「HPCI 資源」を利用する副代表者・共同研究者

2. 所属機関長への説明

   申込後に確認手続きを実施していただくので、所属機関長への事前説明をして了解を得ておいてください。所属機関長とは、大学であれば部局長（学部長・研究科長・研究所長等）、国立研究開発法人や民間企業では大学の部局長に相当する職位の方です。
   研究開始時点では別機関への異動が見込まれている場合でも、申込時点の所属機関長の了解を得てください。

10.1.2. 応募

1. 「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）、「課題申込書（2）」（Excel）の作成

   JHPCN ウェブサイト「共同利用・共同研究公募」よりダウンロードし、「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）、「課題申込書（2）」（Excel）を作成してください。
   前述の「「課題申込書」作成上の留意点」や JHPCN ウェブサイト「共同利用・共同研究公募」を今一度確認してください。

2. 「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）の PDF 化

   「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）を PDF 化してください。Word 版の場合は、あらかじめ留意事項のテキストボックスを削除してください。PDF 化の際に、意図せずページ数が増えてしまうことがあるので、「課題申込書（1）」のページ数制限の範囲内であるかを改めて確認してください。

3. 「課題申込書（1）」（PDF）、「課題申込書（2）」（Excel）のアップロード

   「課題申込書（1）」（PDF）と「課題申込書（2）」（Excel）を「HPCI ウェブサイト」にアップロードしてください。

4. HPCI ウェブサイトへの入力

   「HPCI ウェブサイト」にて、「課題申込書」との整合性に留意の上、必要事項を入力してください。
   なお、入力の際に所属機関長の連絡先として指定するメールアドレスは、原則として所属機関長の役職のアドレスとしてください。役職のアドレスがない場合には、所属機関長個人のアドレス

に加えて、事務担当者・秘書等のアドレスも記載してください。カンマ区切りで複数のメールアドレスを入力するとそれら複数にメールが送信されます。

10.1.3. 応募後に必要な手続き

1. 所属機関長確認手続き

   課題応募受付締切日を迎えたあとに、所属機関長へ直接確認依頼のメールが送られますので、それにしたがって所属機関長による確認手続きを行ってください。

   研究開始時点では別機関への異動が見込まれている場合でも、申込時点の所属機関長の確認手続きが必要です。別途、研究開始後に、異動先機関において、所属機関長の確認手続きが必要となります。

10.1.4. 課題採択後に必要な手続き

1. 対面認証等の手続き

   課題採択後は、HPCI の定めた要領に従って対面認証等の手続きを行ってください。対面認証は、課題代表者もしくは副代表者が、責任をもって行う必要があります。そのために、計算機を利用する研究グループのメンバーの写真付き身分証のコピーを用意して認証を受けなければならない場合があります。対面認証を実施する場合は、事前に最寄り構成拠点（後述の「問い合わせ先」を参照）の実施状況を確認の上、お問い合わせください。

10.2. 応募カテゴリ B：「HPCI 資源」を利用しない研究課題

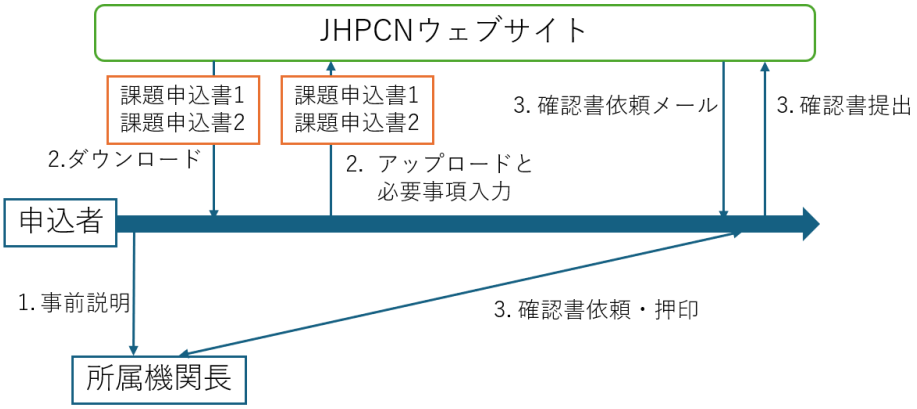


図 5　応募カテゴリ B の手順

『「HPCI 資源」を利用しない研究課題（「非 HPCI 資源」のみを利用する研究課題）』の応募手順です。

『「HPCI 資源」を利用しない研究課題（「非 HPCI 資源」のみを利用する研究課題）』が前述の「応募カテゴリ A」の手順で応募がなされた場合は審査に付しません。

10.2.1. 応募前に必要な手続き

1. 所属機関長への説明
   課題採択後に所属機関長の「確認書」を提出いただく必要があるので、所属機関長への事前説明をして了解を得ておいてください。所属機関長とは、大学であれば部局長（学部長・研究科長・研究所長等）、国立研究開発法人や民間企業では大学の部局長に相当する職位の方です。
   研究開始時点では別機関への異動が見込まれている場合でも、申込時点の所属機関長の了解を得てください。

10.2.2. 応募

1. 「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）、「課題申込書（2）」（Excel）の作成
   「10.1.2」の 1.を参照してください。

2. 「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）の PDF 化
   「10.1.2」の 2.を参照してください。

3. 「課題申込書（1）」（PDF）、「課題申込書（2）」（Excel）のアップロード
   「課題申込書（1）」（PDF）と「課題申込書（2）」（Excel）を JHPCN ウェブサイト「共同利用・共同研究公募」の申込ページにアップロードしてください。

4. JHPCN ウェブサイトへの入力
   JHPCN ウェブサイト「共同利用・共同研究公募」の申込ページにて、「課題申込書」との整合性に留意の上、必要事項を入力してください。
   なお、入力の際に所属機関長の連絡先として指定するメールアドレスは、原則として所属機関長の役職のアドレスとしてください。役職のアドレスがない場合には、所属機関長個人のアドレスに加えて、事務担当者・秘書等のアドレスも記載してください。カンマ区切りで複数のメールアドレスを入力するとそれら複数にメールが送信されます。

10.2.3. 課題採択後に必要な手続き

1. 「確認書」提出手続き
   JHPCN 事務局から個別にご案内しますので、所属機関長の「確認書」を提出してください。
   研究開始時点では別機関への異動が見込まれている場合は、JHPCN 事務局からの案内の際に、その旨お伝えください。

11.スケジュール

11.1. 応募関連

1. 課題代表者向け応募説明会（オンライン）
   2026 年 11 月 20 日（金）13：00
   参加登録用 URL：https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/1CaOI5huRyaA02nNjwqOVg

2. 課題応募受付開始
   2026 年 12 月 10 日（木）

3. 課題応募受付締切
   2027 年 1 月 5 日（火）10：00
   課題応募受付締切後の提出は受理しません。また、締切後の「課題申込書」の訂正は一切認められません。
   後述の「審査に付さない条件」に当てはまる場合には、審査に付さず、また、軽微な不備があった場合には、その状態で審査に付されることになります。
   ただし、2026 年 12 月 21 日（月）までに提出された場合は、JHPCN 事務局において、「審査に付さない条件」に当てはまるような不備がないかを形式的に確認し、不備があった場合には、2027 年 1 月 4 日（月）17：00 頃までに課題代表者に連絡をします。JHPCN 事務局の指摘を受けて、訂正する場合には、課題応募受付締切までに再提出してください。
   特に、初めて本公募に応募される方、「量子-HPC 連携共同研究課題」に応募される方におかれては、2026 年 12 月 21 日（月）までに提出し、JHPCN 事務局の確認を受けることを推奨します。
   なお、ここでいう提出された場合とは、
   ・ 「応募カテゴリ A」：「HPCI 資源」を利用する研究課題では、「10.1.2 応募」
   ・ 「応募カテゴリ B」：「HPCI 資源」を利用しない研究課題では、「10.2.2 応募」
   の手続きが完了したこと意味するものとします。

11.2. 研究関連

1. 結果通知
   2027 年 3 月中旬までに結果を通知する予定

2. 共同研究開始
   2027 年 4 月 1 日（木）

3. 第 19 回 JHPCN シンポジウムでの研究計画・内容の紹介
   2027 年 7 月 8 日（木）、9 日（金）開催場所：東京大学弥生キャンパス弥生講堂（予定）

4. 共同研究期間終了
   2028 年 3 月 31 日（金）

5. 成果報告書の提出
   2028 年 5 月中旬

6. 第 20 回 JHPCN シンポジウムでの研究成果の発表
   2028 年 7 月上旬予定

12.審査に付さない条件

課題応募受付締切までに提出された課題であっても、次のいずれかにあてはまる場合は、審査に付さないので、十分に留意してください。

- 前年度以前の様式の「課題申込書」で応募がなされた場合
- 課題分野を指定せずに応募がなされた場合
- 「課題申込書（1）」（PDF）のページ数制限を超えて応募がなされた場合
- 申請資源量の上限額を超えた申請がなされた場合
- 『「HPCI 資源」を利用する研究課題』で「応募カテゴリ B」の手順で応募がなされた場合
- 『「HPCI 資源」を利用しない研究課題』で「応募カテゴリ A」の手順で応募がなされた場合
- 同一の課題代表者が同一の課題種別で 2 課題以上を応募した場合で、2 課題目以降に応募された課題
- 「量子-HPC 連携共同研究課題」において、東京大学の提供する Miyabi-G または Miyabi-C もしくは大阪大学の提供する OCTOPUS のいずれの資源の利用も申請していない場合
- 「量子-HPC 連携共同研究課題」において、量子コンピュータの利用希望者がいない場合
- その他、課題審査委員会委員長が、公正な審査が困難であると判断した場合

13.留意事項・遵守事項

次の事項を留意または遵守してください。なお、「課題申込書（2）」（Excel）の Check＆Declaration シートにおいて、「募集要項及び関連規則を確認し、応募資格・研究倫理・法令等を遵守し、申請内容に虚偽がないことを誓約」して、電子的な確認をしてください

13.1. 応募時点

応募時点において、次の事項を留意または遵守してください。

13.1.1. 留意事項

1. 個人情報の取り扱い
   応募に際して提供された個人情報は、研究課題審査とシステム利用の目的にのみ利用します。そのため、「HPCI 資源」の利用に必要な範囲で、HPCI を運営する RIST と共有します。また、「量子-HPC 連携共同研究課題」の課題種別で応募された場合は、量子コンピュータ利用の準備のために必要な範囲で、理研と共有します。

13.1.2. 遵守事項

1. 研究不正への対応
   研究活動における不正行為を行わないこと、それに加担しないことを誓約してください。研究活動における不正行為（JHPCN 課題以外での不正も対象）が所属機関等で認定された場合には、当該研究者の研究グループからの削除、課題停止、応募資格停止とする可能性があります。

13.2. 採択時

採択された場合において、次の事項を留意または遵守してください。

13.2.1. 留意事項

1. 免責事項
   本課題の研究に関連して利用者に生じた、いかなる不利益な事項に対しても、各構成拠点は一切の責任を負いません。
2. 利用規程の取り扱い
   利用する研究資源に関する規程・規則等の関係で、計算資源の利用が許可されないことがあります。
3. 知的財産等の取り扱い
   原則として、本課題の研究で発生した知的財産は各研究グループに帰属します。ただし、共同研究の実施者における発明者の認定については、各大学の知的財産ポリシー等に基づき対応がなされることを想定しています。詳細やその他の例外的な事項の取り扱いは、各構成拠点まで相談してください。
4. 課題申込書の取り扱い
   「量子-HPC 連携共同研究課題」の課題種別では、適切にシステム利用ができるよう、Miyabi（Miyabi-G/Miyabi-C）を利用する課題では東京大学情報基盤センターに、OCTOPUS を利用する課題では大阪大学 D3 センターに「課題申込書」を共有します。各センターから連携に関する助言等を行うことがあります。

13.2.2. 遵守事項

1. 研究倫理教育の受講

対象となる研究グループのメンバーが含まれる場合は、研究倫理教育の受講証明を提出してください。

- 受講証明の提出が不要なケース
  競争的研究資金の配分を受ける機関（国内の大学、公的研究機関、一部の民間企業）に所属する研究グループのメンバー[12]。
- 受講証明の提出が必要なケース
  上記に該当しない方（競争的研究費の配分を受けていない民間企業や海外の研究機関に所属する研究者・学生）は次のいずれかの受講証明を提出してください。
  - ✧ 所属機関で実施されている独自の研究倫理教育の受講証明書
  - ✧ 所属機関のウェブサイトにて公開されている、研究倫理教育が行われていることが確認できる資料（研究倫理に関する規則、規範等）
  - ✧ JHPCN 事務局で案内する教材の修了を証明する書類[13]

  受講証明書の提出が、研究開始後３ヶ月以内に行われない場合は、当該研究グループからの削除が必要となります。

2. 利用規程の遵守

施設の利用に関しては、利用する研究資源に関する規程・規則等を遵守してください。

3. JHPCN シンポジウムでの発表・成果報告書の提出

採択された課題代表者は、「JHPCN シンポジウム」での発表および成果報告書の提出を行ってください。詳細は、採択後に JHPCN 事務局から連絡します。JHPCN シンポジウムでの発表者の旅費は、各課題 1 名分を JHPCN から支出いたします。

- **研究計画・内容の紹介**
  2027 年 7 月 8 日、9 日に開催予定の第 19 回 JHPCN シンポジウムにおいて、研究計画・内容の紹介を行ってください。
- **成果報告書の提出**
  2028 年 5 月中旬までに、成果報告書を提出してください。成果報告書は、JHPCN ウェブサイト「公募型共同課題」で原則として公開します。成果報告書が不提出の場合には、課題の応募ならびに参加資格停止の可能性があります。なお、「国際共同研究課題」の成果報告書は、英語で作成してください。
- **研究成果の発表**
  2028 年 7 月に開催予定の第 20 回 JHPCN シンポジウムにおいて、研究成果の発表を行ってください。

4. 成果発表時の謝辞の記載

採択された課題の成果として論文等を発表する際には、共同研究との関連性を明確にするため、

---

[12] 競争的研究費の配分を受ける機関は、研究者に対して研究倫理教育等を実施する義務を負っているため、受講証明の提出は求めないこととしています。

[13] 所属機関において研究倫理教育が未実施の場合、教材を案内しますので早急に JHPCN 事務局に相談してください。

謝辞を記載してください。例文は JHPCN ウェブサイト「研究成果の謝辞の記載例」を参照してください。

14.問い合わせ先

14.1. 応募に関する相談

- **JHPCN 事務局**
  jhpcn.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
  （電話でのお問い合わせについては、お答えできませんので、あらかじめご承知おきください）

14.2. 構成拠点の資源に関する相談

構成拠点ごとの利用可能な資源、利用方法、利用資格の詳細や、共同研究を行う構成拠点所属教員、知的財産の取り扱いなどに関しては、直接、次の各構成拠点の連絡先にお尋ねください。

- **北海道大学情報基盤センター**
  kyodo@oicte.hokudai.ac.jp
- **東北大学サイバーサイエンスセンター**
  cc-joint_research@grp.tohoku.ac.jp
- **東京大学情報基盤センター**
  https://www.cc.u-tokyo.ac.jp/support/reference.html
- **東京科学大学情報基盤センター**
  https://www.t4.cii.isct.ac.jp/contact-t4
- **名古屋大学情報基盤センター**
  https://sc.icts.nagoya-u.ac.jp/
- **京都大学学術情報メディアセンター**
  kyoten-8gm@media.kyoto-u.ac.jp
- **大阪大学 D3 センター**
  system@cmc.osaka-u.ac.jp
- **九州大学情報基盤研究開発センター**
  request@iii.kyushu-u.ac.jp
- **mdx I**
  mdx-help@mdx.jp
- **mdx II**
  mdx2-system@cmc.osaka-u.ac.jp

別紙（1）利用可能な「HPCI 資源」一覧

（「HPCI-JHPCN システム」として提供される資源）

「課題申込書 (2)」(Excel) の資源利用計画欄の記入にあたっては、資源量の利用可能性などについて、必要に応じて利用拠点に相談・確認の上、記入してください。

資源の説明はそれぞれの構成拠点のウェブサイトを参照してください。

北海道大学情報基盤センター

ウェブサイト URL：https://www.hucc.hokudai.ac.jp/

1. スーパーコンピュータ Grand Chariot 2（グラン・シャリオ 2）

《ハードウェア資源》

①CPU ノード群

- ノード構成：Intel Xeon Gold 6548Y+（Emerald Rapids，32 コア，2.5GHz）×2，メモリ 512GiB
- 480 ノード（理論ピーク性能 2.457PFLOPS），一般利用者と共有
  投入可能ジョブ：最大 64 ノード
- 1 課題当たり最大 42,000CPU 時間積

②GPU ノード群

- ノード構成：Intel Xeon Gold 6548Y+（Emerald Rapids，32 コア，2.5GHz）×2，メモリ 512GiB，NVIDIA H100×4
- 24 ノード（理論ピーク性能 6.55PFLOPS），一般利用者と共有
  投入可能ジョブ：最大 8 ノード
- 1 課題当たり最大 13,000GPU 時間積

③ストレージシステム（CPU ノード・GPU ノード共通領域）

- Lustre16.95PB（オールフラッシュ）
- 4TB 単位，1 課題当たり最大 40TB

《利用金額計算式》

- CPU 時間積：経過時間に利用した CPU ソケット数を乗じたもの.
- GPU 時間積：経過時間に利用した GPU カード数を乗じたもの.
- 「課題申込書（2)」（Excel）の資源利用申請シートを参照してください.

《ソフトウェア資源》

【言語コンパイラ】

Intel oneAPI Base & HPC Toolkit，NVIDIA HPC SDK，NVIDIA CUDA Toolkit，GNU Compiler，Java，Python, Julia

【ライブラリ】

cuBLAS, cuDNN, cuFFT, cuSPARSE, FFTW, HDF5, Intel MPI, Intel oneMKL, MAGMA, NCCL, NetCDF, NVIDIA HPCX, OpenMPI

【アプリケーション】

ABINIT-MP, BLAST, FrontFlow/red, GAMESS, Gaussian, GrADS, GROMACS, Horovod, Keras, LAMMPS, MEEP, MXNet, MyPresto, NAMD, OpenFOAM, OpenMX, PHASE, PyTorch, Quantum ESPRESSO, TensorFlow, V-FaSTAR, VMD, WRF

※ソフトウェア資源の詳細はウェブサイト（https://www.hucc.hokudai.ac.jp/supercomputer/software/）で確認してください。

2. 研究クラウド

《ハードウェア資源》

1）共有 Kubernetes クラスタ

（1 課題当たり 600 仮想コア (1200GB メモリ), 1 物理 GPU, 永続ボリューム, 20TB までとする.）

全課題合計での総提供資源量は 1200 仮想コア，2 物理 GPU，80TB 永続ボリュームまでとする．本クラスタは他の課題や一般利用者と共有する.

2）占有 Kubernetes クラスタ（1 課題当たり 1 セット（物理ノード 3 台），永続ボリューム 20TB まで．占有クラスタの提供は全課題合計で 1 セットまで）

3）物理ノードを他の課題や一般利用者と分離して提供する.

《利用金額計算式》

「課題申込書（2）」（Excel）の資源利用申請シートを参照してください.

《ソフトウェア資源》

【アプリケーションカタログ】

Rancher 提供の MariaDB，Apache Spark，Istio 等のアプリケーション．それ以外のアプリケーション導入については応相談（信頼できる公式 Helm レポジトリ等が提供されていること）

《利用形態》

mdx I との L2VPN 接続応相談（占有クラスタのみ）

東北大学サイバーサイエンスセンター

ウェブサイト URL：https://www.ss.cc.tohoku.ac.jp/

《特記事項》

ストレージは 1 課題あたり 20TB、1TB 単位で追加可能（最大ストレージ容量は応相談）

1. スーパーコンピュータ AOBA サブシステム AOBA-S（504 ノード）

《ハードウェア資源》

理論ピーク性能 21.05PFLOPS（DP），主記憶容量 504TB，最大 256 ノード，一般利用者と共有利用

《利用金額計算式》

ベクトルノード：1NH=100 円
CPU ノード： 1 NH＝22 円
ストレージ 1TB 年=3,000 円

《ソフトウェア資源》

【言語コンパイラ】
Fortran コンパイラ，C/C++コンパイラ
【ライブラリ】
NEC MPI，NEC Numeric Library Collection（BLAS，FFTW，LAPACK，ScaLAPACK を含む），Ftrace Viewer，PROGINF/FTRACE
【アプリケーションソフトウェア】
Quantum ESPRESSO，FPSEID21，ABINITMP，PHASE/0，SALMON，HΦ，FrontISTR，FFX，Gaussian16，MATLAB，OpenFOAM，GROMACS，LAMMPS，GENESIS，MODYLAS，NTChem，OpenMX，SMASH，mVMC，ALAMODE，Phonopy，AkaiKKR，FrontISTR，FFVHCACE
【コンテナ仮想化技術】
Singularity（Docker image 可能）

東京大学情報基盤センター

1. Miyabi-G

最先端共同 HPC 基盤施設スーパーコンピュータシステム／演算加速ノード，NVIDIA GH200 Superchip，合計 1,120 ノード搭載（ノード当たり 1CPU+1GPU，合計 1,120CPU+1,120GPU）

《ハードウェア資源》

- １課題あたり最大資源配分量：43,200GPU 時間
- ストレージ：計算機資源配分量に応じて，8,640GPU 時間当たり 5TB（最大 50TB），Ipomoea-01（共通ストレージ）に 8,640GPU 時間当たり 0.750TB が自動的に配分されます（最大 7.5TB）。
- 投入可能ジョブ：最大 256 ノード
- 投入可能ジョブ：最大 256 ノード（256CPU+256GPU）
- MIG（Multi-Instance GPU）の利用により 4 分の 1 ノード分の計算機資源の利用が可能
- 量子・HPC ハイブリッド連携のための量子コンピュータ群（ibm_kobe，Reimei）

《利用資源計算式》

1 ノード時間＝69.44 円

《ソフトウェア資源》

【言語コンパイラ】

Fortran，C，C++

【ライブラリ】

MPI，BLAS，LAPACK/ScaLAPACK，FFTW，PETSc，METIS/ParMETIS

【アプリケーションソフトウェア】

OpenFOAM，ABINIT-MP，PHASE，FrontFlow/Blue，FrontISTR，REVOCAP，ppOpen-HPC（一部 GPU 非対応），

【コンテナ仮想化】

singularity（docker image 可能）

【量子・HPC ハイブリッド連携】

関連ソフトウェア群一式

2. Miyabi-C

最先端共同 HPC 基盤施設スーパーコンピュータシステム／汎用 CPU ノード，Intel Xeon Max 9480 with only HBM，合計 190 ノード搭載（ノード当たり 2CPU，合計 380CPU）

《ハードウェア資源》

- 1 課題あたり最大資源配分量：51,840 ノード時間
- ストレージ：計算機資源配分量に応じて，8,640 ノード時間当たり 4TB（最大 48TB），Ipomoea-01（共通ストレージ）に 8,640 ノード時間当たり 0.600TB が自動的に配分されます（最大 7.2TB）。
- 投入可能ジョブ：最大 64 ノード（128CPU）
- 量子・HPC ハイブリッド連携のための量子コンピュータ群（ibm_kobe，Reimei）

《利用資源計算式》

1 ノード時間＝55.56 円

《ソフトウェア資源》

【言語コンパイラ】

Fortran，C，C++

【ライブラリ】

MPI，BLAS，LAPACK/ScaLAPACK，FFTW，PETSc，METIS/ParMETIS

【アプリケーションソフトウェア】

OpenFOAM，ABINIT-MP，PHASE，FrontFlow/Blue，FrontISTR，REVOCAP，ppOpen-HPC（一部 GPU 非対応），MATLAB（*）

(*）利用対象者はアカデミックユーザ限定です

【コンテナ仮想化】
singularity（docker image 可能）
【量子・HPC ハイブリッド連携】
関連ソフトウェア群一式

注意：Miyabi-G, Miyabi-C の両方またはいずれかを利用して、量子・HPC ハイブリッド連携の利用を希望される場合は、必ず「量子-HPC 連携共同研究課題」の課題種別で応募してください。また、その場合には必ず 2026 年 12 月 15 日（火）までに東大センター担当窓口（uketsuke@cc.u-tokyo.ac.jp）に相談してください。

3. Miyabi-G/Miyabi-C（追加ストレージ）

《ハードウェア資源》
1 課題あたり最大資源配分量：50TB

《利用資源計算式》
1TB／年＝6,480 円

4. AI4S-SDLI-G（仮称）（2026 年 11 月末公開）（2027 年 6 月より提供）

「計算・データ・学習・推論」融合基盤システム／演算加速ノード群

5. AI4S-SDLI-C（仮称）（2026 年 11 月末公開）（2027 年 6 月より提供）

「計算・データ・学習・推論」融合基盤システム／汎用 CPU ノード群

6. AI4S-SDLI（追加ストレージ）（仮称）（2026 年 11 月末公開）（2027 年 6 月より提供）

各システムの詳細は下記 URL を参照ください：
Miyabi：https://www.cc.u-tokyo.ac.jp/supercomputer/miyabi/service/
Ipomoea-01：https://www.cc.u-tokyo.ac.jp/supercomputer/ipomoea01/service/

東京科学大学情報基盤センター

1. TSUBAME4.0

《ハードウェア資源》

TSUBAME4.0 は計算ノード 240 台，理論演算性能は 66.84PF（CPU46,080 コア，GPU960 基）です。（一般ユーザと共有）

《利用金額計算式》

希望する計算資源量を 400 NH=1Unit を最小単位として申請してください. またストレージは HDD（1TB 単位）と SSD（100GB 単位）のそれぞれの年度当初の利用容量を申請してください。

計算資源とストレージの一年分の Unit を合算後に小数点以下を切り上げます。

切り上げ分は計算資源として追加提供します。

なお、Unit は TSUBAME4.0 での資源管理の単位です。

※Unit あたりの金額の詳細は、「課題申込書（2）」（Excel）の資源利用申請シートを参照してください。

計算資源：400NH=1Unit

※第 4 四半期の 1 課題あたり提供上限量：1,600NH（=4Unit）

ストレージ（1 年分）：HDD 1TB=6NH=0.015Unit

SSD 100GB=2.4NH=0.006Unit

※ 1 課題あたり提供上限量：HDD 250TB（=3.75Unit）

SSD 3TB（=0.18Unit）

※年間の資源利用の平滑化と第 4 四半期の混雑防止を目的として、四半期ごとに利用可能な計算資源の調整を行います。具体的な実施方法については、TSUBAME のウェブサイト（HPCI / JHPCN 利用法 — 計算機資源量について）を確認すること。

《ソフトウェア資源》

【OS】

Red Hat Enterprise Linux

【言語コンパイラ】

Intel oneAPI，NVIDIA HPC SDK，Arm Forge，CUDA，GNU compiler Collection，g++，Python，ruby，perl，PHP

【アプリケーション】

Gaussian，Gauss View，AMBER（学術研究機関所属者のみ），VASP（学術研究機関所属のライセンス所持者のみ），GAMESS，QUANTUM ESPRESSO，Tinker，GROMACS，LAMMPS，NAMD，CP2K，OpenFOAM，Alphafold，PyTorch，TensorFlow，POV-Ray，ParaView，VisIt，vmd，VESTA，Hadoop，gimp，gnuplot，R

【コンテナ】
Apptainer
《URL》
TSUBAME4 計算サービス https://www.t4.cii.isct.ac.jp/docs/handbook.ja/#top
HPCI / JHPCN 利用法 ― 計算機資源量について https://www.t4.cii.isct.ac.jp/hpci-resource

名古屋大学情報基盤センター

1. スーパーコンピュータ「不老・弐」Type I サブシステム

《ハードウェア資源》
7.07PFLOPS（256 ノード，98,304 コア，194,304GiB（253 ノード）＋18,432GiB（3 ノード）メモリ）

《利用金額計算式》
CPU：1NH=123 円
ホットストレージ：1TB/年=3,500 円

《ソフトウェア資源》
【OS】
Rocky Linux9
【開発環境】
Intel oneAPI ベース＆HPC ツールキット，AMD Zen Software Studio
【ライブラリ】
FFTW，SuperLU，SuperLU M，SuperLU DIST，METIS，MT-METIS，ParMETIS，Scotch，PT-Scotch，PETSc，MUMPUS，Xabclib，ppOpen-APPL/BEM，ppOpen-APPL/FEM，ppOpen-AT，ppOpen-APPL/FDM, ppOpen-MATH/MP, ppOpen-APPL/FDM-AT, ppOpen-APPL/DEM-util, ppOpenAPPL/AMR-FDM, ppOpen-APPL/BEM-AT, ppOpen-APPL/FVM, ppOpen-MATH/VIS, OpenMPI
【アプリケーションソフトウェア】
OpenCV, Geant4, NetCDF, Parallel netCDF, HDF5, TensorFlow, PyTorch, Keras, conda, Numpy, Scipy，scikit-learn，scikit-image，pillow，matplotlib，jupyterlab，VSCode，Singularity，ABINIT-MP, Quantum ESPRESSO, CHARMM, OpenFOAM, Front-Flow/bule, Front-Flow/red, FrontISTR, GENESIS, GAMESS-US, Gromacs, LAMMPS, NAMD, CP2K, Amber, Gaussian, VASP, Chimera, 3D AVS Player，OVITO，VMD，ParaView，POV-Ray・POV-Ray parallel，ffmpeg,ffplay，VTK,

RyMOL, meshlab, VisIt, AVS/Express Developer, IDL, ENVI, Amber

2. スーパーコンピュータ「不老・弐」Type II サブシステム

《ハードウェア資源》

9.03PFLOPS（FP64）

（54 ノード(1 ノードあたり：NVIDIA GB200 NVL4(GraceCPU×2+B200×4 メモリ 960GiB(CPU)+740GiB（GPU)))

《利用金額計算式》

CPU：1NH=317 円

ホットストレージ：1TB/年=3,500 円

《ソフトウェア資源》

【OS】

Rocky Linux9

【開発環境・ライブラリ】

コンパイラ NVIDIA HPC SDK, NVIDIA CUDA Toolkit, FFTW, SuperLU, SuperLU MT, SuperLU DIST, METIS, MT-METIS, ParMETIS, Scotch, PTScotch, PETSc, MUMPUS, Xabclib, ppOpen-APPL/BEM, ppOpen-APPL/FEM, ppOpen-AT, ppOpen-APPL/FDM, ppOpen-MATH/MP, ppOpen-APPL/FDM-AT , ppOpen-APPL/DEM-util , ppOpen-APPL/AMR-FDM , ppOpen-APPL/BEM-AT, ppOpen-APPL/FVM, ppOpen-MATH/VIS, OpenMPI

【アプリケーションソフトウェア】

OpenCV, Geant4, NetCDF, Parallel netCDF, HDF5, TensorFlow, PyTorch, Keras, conda, Numpy, Scipy, scikit-learn, scikit-image, pillow, matplotlib, jupyterlab, VSCode, Singularity, ABINIT-MP, Quantum ESPRESSO, CHARMM, OpenFOAM, Front-Flow/bule, Front-Flow/red, GENESIS, GAMESS-US, Gromacs, LAMMPS, NAMD, CP2K, Parabricks, nvidia-container-toolkit, cuQuantum, CUDA-Q, AlphaFold, ColaboFold, RELION, DeePMD-kit, cryoSPARC, Amber, Gaussian

1 課題当たりの最大資源配分量

TypeI　24,390NH

TypeII　9,460NH

3. ホットストレージ

600TB/年

4. ノード占有利用（TypeII サブシステム）

《ハードウェア資源》

TypeII サブシステムのノード占有利用です。学外から L2VPN にて接続出来，占有利用可能です。利用には個別に機器や消耗品，接続・設定が必要なため，課題申請前に相談してください。

《利用形態》

その他

《利用金額計算式》

ノード占有利用（TypeII サブシステム）：1 ノード/月=330,000 円

全体で最大 1 ノードまで

全資源を一般利用者と共用で提供

京都大学学術情報メディアセンター

1. Camphor3（Intel Xeon）

《ハードウェア資源》

① 通年利用

96 ノード、10,752 コア、652.8TFLOPS×12 ヶ月（2027 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日、1 課題あたり最大 32 ノード×12 ヶ月）

※ただし、1 ジョブあたり最大利用可能なノード数は採択後に決定

②集中利用

96 ノード、10,752 コア、652.8TFLOPS×8 週（1 課題あたり最大 96 ノード×4 週、1 週間単位での利用）

③ストレージ容量

1 課題あたり最低 10TB を提供。通期利用のノード時間に応じてストレージ容量を増量（720 ノード時間当たり約 1TB が目安）。

10TB 単位でストレージ容量のみ追加が可能（最大ストレージ容量は応相談）

④高速ストレージ容量

2TB 単位で追加が可能（最大高速ストレージ容量は応相談）

《利用金額計算式》

①1NH=20.8 円

②1NH=53.5 円

③10TB=10,000 円

④2TB=10,000 円

《ソフトウェア資源》

【OS】

Red Hat Enterprise Linux 8

【言語コンパイラ】

Intel oneAPI （Fortran，C/C++，OpenMP）

【ライブラリ】

Intel oneAPI MKL （BLAS，LAPACK，ScaLAPACK）

【アプリケーションソフトウェア】

Gaussian16，GaussView，MATLAB

資源の詳細についてはこちらを参照ください：

https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/comp/supercomputer/system/specification.html

大阪大学 D3 センター

1. OCTOPUS

(https://www.hpc.cmc.osaka-u.ac.jp/octopus2/)

《ハードウェア資源》

・ 汎用 CPU ノード群

共有利用にて提供

140 ノード，総主記憶容量 103TiB

1 課題あたり最大 5.48 ノード年まで提供

全課題合計で 28 ノード年まで提供

・ ストレージ

Lustre3.58PB（HDD）

1 課題あたり最大 HDD：100TiB まで提供

・ 量子・HPC ハイブリッド連携のための量子コンピュータ群（ibm_kobe，Reimei）

《利用金額計算式》

汎用 CPU ノード群［共有利用］：1 ノード時間=66.9 円

ストレージ HDD：5TB まで 0 円

5TB 超過分は 1TB/年=2,200 円

《ソフトウェア資源》

【開発環境】

Intel oneAPI Base & HPC Toolkit （Fortran，C，C++），GNU Compiler Collection（Fortran，C，C++），Python，OpenJDK，R，Julia

【通信ライブラリ】

Intel MPI，Open MPI

【科学技術計算ライブラリ】

Intel oneMKL，GNU Scientific Library，NetCDF，Parallel NetCDF，HDF5

【機械学習フレームワーク】

TensorFlow，Keras，PyTorch，pbdR

【アプリケーション】

Gaussian, IDL, AVS/Express, ParaView, Gnuplot, ImageMagick, NcView, GROMACS, OpenFOAM, LAMMPS, GAMESS, ABINIT-MP, ReLion, ADIOS, VisIt, CTFFIND, FLASHcode, FreeFem++, GENESIS, MotionCor3, SMASH, Quantum ESPRESSO, OpenMX, ResMap, NEC Vector Annealing

【量子・HPC ハイブリッド連携】

関連ソフトウェア群一式

注意：OCTOPUS を利用して、量子・HPC ハイブリッド連携の利用を希望される場合は、必ず「量子-HPC 連携共同研究課題」の課題種別で応募してください。また、その場合には必ず 2026 年 12 月 15 日（火）までに大阪大学 D3 センター（system@cmc.osaka-u.ac.jp）に相談してください。

九州大学情報基盤研究開発センター

1. ノードグループ A

《ハードウェア資源》

1.1　1 課題当たりノード固定 8 ノード・12 ヵ月（ノード固定）

1.2　1 課題当たり共有 16,000 ノード時間積（一般ユーザと共有）

［ノード構成］

CPU：Xeon Platinum 8490H 1.9GHz / 60C x2

MEM：512GB

《利用金額計算式》

1.1　1 課題当たりノード固定 8 ノード・12 ヵ月（ノード固定）

8 ノード月＝144,000 円

1.2　1 課題当たり共有 16,000 ノード時間積（一般ユーザと共有）

16,000 ノード時間積＝480,000 円

《ソフトウェア資源》

研究用計算機システムウェブサイトをご参照ください。

https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/system/genkai/software/

2. ノードグループ B

《ハードウェア資源》

1 課題当たり共有 4,000 ノード時間積（一般ユーザと共有）

［ノード構成］

CPU：Xeon Platinum 8490H 1.9 GHz / 60C　x2

GPU：NVIDIA H100（SXM5）　x4

MEM：1,024GB

GPU メモリ：94GB/GPU

《利用金額計算式》

1 課題当たり共有 4,000 ノード時間積（一般ユーザと共有）

4,000 ノード時間積＝480,000 円

《ソフトウェア資源》

研究用計算機システムウェブサイトをご参照ください。

https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/system/genkai/software/

3. 大容量ストレージ

大容量ストレージは 1 課題あたり 1TB を提供する。希望する場合 1TB 単位で追加可能。（最大 400TB まで）

《利用金額計算式》

10TB 月＝1,300 円

4. 高速ストレージ

高速ストレージは 1TB 単位で 1 課題当たり最大 40TB まで追加可能。

《利用金額計算式》

1TB 月＝420 円

複数の資源を組み合わせて利用する場合の課題当たりの合計資源量の上限については、申請前にお問い合わせください。

複数の資源を希望する場合は利用期間を共通としてください。

上限以上のストレージ容量をご希望の場合はご相談ください。

別紙（2）利用可能な「非 HPCI 資源」一覧

mdx I 及び mdx II は各構成拠点を含めた複数機関の共同運用ですが、ここでは独立した拠点による運用とみなして記載しています。

mdx I

mdx I の概要、mdx I で利用できる仮想マシンのサービス、資源割り当ての考え方、利用料金等の詳細は https://mdx.jp/mdx1 を参照のこと

《2027 年度における注意事項》

- mdx I の運用は、2027 年度末をもって原則として終了する予定である。
- Web サービスなど、2028 年度以降も継続して運用することが見込まれるサービスを構築する場合は、mdx II との併用、もしくは mdx II 単独での利用を検討すること。
- 年度途中においても CPU ノードについては、利用状況に応じて運用規模を縮小する可能性がある。システム全体でストレージ容量が逼迫しているため、大量のストレージ利用申請については、申請容量の削減を要請する場合がある。

《mdx I 全体のハードウェア資源》

- 汎用（CPU）ノード：
  PRIMERGY CX2550 M6：Intel Xeon Platinum 8368（IceLake 38 コア、2.4GHz×2 ソケット）×368 ノード
- 演算加速（GPU）ノード：
  PRIMERGY GX2570 M6：（Intel Xeon Platinum 8368（IceLake 38 コア、2.4GHz×2 ソケット）＋ NVIDIA A100 GPU×8）×40 ノード
- 仮想ディスク用ストレージ：約 0.44PB
- 高速内部ストレージ：
  約 0.93PB、Lustre ファイルシステム
- 大容量ストレージ：
  約 15.6PB、Lustre ファイルシステム
- オブジェクトストレージ：
  約 9.4PB、AWS S3 互換ストレージ
- 外部ネットワーク：
  対外接続 400Gb/s（SINET6 接続）、L2VPN も利用可能（応相談）
- 内部ネットワーク：
  Virtual eXtensible LAN（VXLAN）によるオーバーレイネットワーク、プロジェクト専用の VLAN を割り当て（複数割り当て可能）

《プロジェクトごとに割り当て可能な資源》

以下の計算資源をプロジェクトごとに申請し、起動した VM にそれぞれ割り当てる。

・ 汎用(CPU)ノード：
1 CPU パック(1 コア(vCPU)。約 1.5 GB/コア・メモリ)単位で申請
・ 演算加速(GPU)ノード：
1 GPU パック(1 GPU+18 コア(vCPU)/GPU)、約 57 GB・メモリ)単位で申請
・ 仮想ディスク用ストレージ、高速内部ストレージ、大容量ストレージ、オブジェクトストレージ：
1 GB 単位で申請
・ グローバル IP アドレス： 1 IP 単位で申請

《ソフトウェア資源》

・ 仮想マシンは仮想化ソフトウェア：VMware vSphere(vCenter, ESXi)上で稼働する。仮想マシンにはプロジェクトに必要なソフトウェア（OS 含む）を各自でインストールする。また、OS やソフトウェアパッケージが予めインストールされた仮想マシンのテンプレートが提供される。
・ 利用者は、プロジェクトに配分された資源から、ポータルを通じて、必要な計算資源、ネットワークを VM に割り当てて使用する。
・ L2VPN を始めとして mdx 以外の資源との連携を考慮する必要がある場合には、事前にサポート窓口（mdx-help@mdx.jp）宛に相談すること。

《予算方式について》

・ mdx I の資源利用は mdx II との「共有予算方式」にて行う。
・ mdx I および mdx II の利用課題として採択された全課題の採択額の合計から、課題ごとに割り当てられる「個別予算」（※）を差し引いた額を「共有予算」とし、すべての課題で共有して利用する。
※個別予算は、各採択課題に対して 10 万円分（mdx I ポイントで 10 万ポイント）が措置される。
・ 共有予算が枯渇した場合は、各課題に割り当てられた個別予算が消費される。
・ 共有予算が枯渇あるいは不足した場合、自己資金で mdx I ポイントを購入して利用を継続することも可能である。

《申請方法について》

・ 「課題申込書（2）」（Excel）の mdx シートで「mdx I のみ利用」もしくは「mdx I+mdx II どちらも利用」を選択する。
・ 「課題申込書（2）」（Excel）の mdx シートで「100 万円」と「360 万円－他拠点での資源申請量」（※）のうち少ない方が申請資源量となる。詳細な資源量の入力は不要。
※各採択課題には個別予算として 10 万円分が措置されるため、mdx I を利用申請する場合は、複数拠点への申請資源量を調整し、mdx I の申請資源量が 10 万円未満とならないよう留意してください。

《資源の割り当てについて》

・ 計算資源・ストレージ共通：
ユーザポータルにて必要な資源量を申請し、不要になった場合は同じくユーザポータルで減量申請を行う。ただし、mdx I 全体の利用可能な資源量と共有予算の残額に鑑みて申請が却下される場

合があるほか、全体の資源量が逼迫した場合、各プロジェクトに割り当てた資源量が使用中に減量されることがある。この場合、事前にメール等でユーザに通知される。

・ 起動保証 VM・スポット VM：
起動保証 VM はユーザポータルから申請する。スポット VM 資源については申請不要（スポット VM 利用時に指定する）。JHPCN 課題では原則として GPU パックの起動保証資源は利用しないこととするが、課題遂行のためにどうしても必要となる場合には「課題申込書（1）」（Word/LaTeX）に附属する「資源量積算根拠と利用目的」にその旨記述する。

mdx II

mdx II の概要は以下を参照してください。
https://mdx.jp/mdx2/p/system
また、相互運用ノードの利用イメージについては以下を参照してください。
https://mdx.jp/mdx2/p/vmware

《JHPCN に提供するハードウェア資源》

・ 相互運用ノード群 6 ノード（43.008TFLOPS）
［1 ノードあたりの構成］
-CPU：Intel Xeon Platinum 8480+プロセッサー（2.0GHz56 コア）2 基
-主記憶容量：512GB
-理論演算性能：7.168TFLOPS
・ Lustre ファイルストレージ
有効利用容量：NVMe1,106.48TB

《プロジェクトごとに割り当て可能な資源》

以下の計算資源をプロジェクトごとに 3 ヶ月単位で申請する。

・ 相互運用ノード仮想マシン
16CPU パック（16 仮想コア、32GB メモリ）から 224CPU パック（224 仮想コア、498GB メモリ）まで申請可能ストレージ容量 1TB 単位で申請可能
・ Lustre ファイルシステム：1TB 単位で申請可能
・ グローバル IP アドレス：1IP 単位で申請可能

《ソフトウェア資源》

・ 相互運用ノード仮想マシンは仮想化ソフトウェア VMware ESXi 上で稼働する。仮想マシンにはプロジェクトに必要なソフトウェアを各自でインストールする。
・ mdx II 以外の資源との連携を考慮する必要がある場合には、事前に mdx II 運用室（mdx2-system@cmc.osaka-u.ac.jp）宛に相談すること

《予算方式について》

- mdx II の資源利用は mdx I との「共有予算方式」にて行う。
- mdx I および mdx II の利用課題として採択された全課題の採択額の合計から、課題ごとに割り当てられる「個別予算」（※）を差し引いた額を「共有予算」とし、すべての課題で共有して利用する。
  ※個別予算は、各採択課題に対して 10 万円分（mdx II ポイントで 10 万ポイント）が措置される。
- 共有予算が枯渇した場合は、各課題に割り当てられた個別予算が消費される。
- mdx II を利用する際には「共通予算」から仮想マシンやストレージを申請する。「共通予算」の有効期間は 3/31 とする。また、共通予算で足りない場合等に、自己資金で追加することも可能である。

《申請方法について》

- 「課題申込書（2）」（Excel）の mdx シートで「mdx II のみ利用」もしくは「mdx I+mdx II どちらも利用」を選択する。
- 「課題申込書（2）」（Excel）の mdx シートで「100 万円」と「360 万円－他拠点での見積額」のうち少ない方が申請資源量となる。利用量等の入力は要しない。
  ※各採択課題には個別予算として 10 万円分が措置されるため、mdx II を利用申請する場合は、複数拠点への申請資源量を調整し、mdx II の申請資源量が 10 万円未満とならないよう留意してください。

《資源の割り当てについて》

mdx II 全体で空いている資源の範囲内で、プロジェクトユーザが必要な資源量を都度申請する。ただし、mdx II 全体の利用可能な資源量と共有予算を加味して申請が却下される場合がある。この場合、事前にメール等でユーザに通知される。

北海道大学情報基盤センター

大判カラープリンタ

大判カラープリンタ

東北大学サイバーサイエンスセンター

該当なし

東京大学情報基盤センター

該当なし

東京科学大学情報基盤センター

該当なし

名古屋大学情報基盤センター

1. 可視化システム

《ハードウェア資源》

185 インチ 8K タイルドディスプレイ，180 インチ円偏光立体視システム，ドーム型ディスプレイシステム，スーパーコンピュータ「不老・弐」の備える画像処理装置/オンサイト利用装置
（NICE DCV を用いた遠隔可視化も行えます）

《利用形態》

事前予約制

《利用金額計算式》

可視化システム：1 式/年=20,000 円

京都大学学術情報メディアセンター

1. 仮想サーバホスティング

《ハードウェア資源》

標準構成：CPU2 コア,メモリ 4GB,ディスク 100GB
資源増量：CPU は 2 コア単位で最大 8 コアまで。
　　メモリは 4GB 単位で最大 64GB まで。
　　ディスクは 100GB 単位で最大 1TB まで。
総提供資源：CPU32 コア,メモリ 256GB,ディスク 8TB

《利用金額計算式》

標準構成：1VM=38,400 円
資源増量：

① CPU2 コア＝3,600 円
② メモリ 4GB＝3,600 円
③ ディスク 100GB=7,200 円

《ソフトウェア資源》
【ハイパーバイザ】VMware
【OS】AlmaLinux
《利用形態》
SINET L2VPN 可

資源の詳細についてはこちらを参照ください：
https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/comp/vm/

大阪大学 D3 センター

該当なし

九州大学情報基盤研究開発センター

該当なし